

三世代ふれあい事業

“バルーンランドにっこにこ笑顔いっぱい”



【穂波学区】

■世帯数：4,289 世帯

■人 口：8,671 人

■面 積：1.075k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・三世代ふれあい事業の一環として、学区子ども会連合会が中心になり、連絡協議会協賛により「バルーンランド」を開催。
- ・穂波小学校体育館を会場に、風船を使ったイベントで「バルーンショー」と3つの体験ブース（①作って楽しい、②遊んで楽しい、③変身コーナー）のプログラムに約 350 人が参加した。

【住民へのPR方法】

チラシの回覧、掲示板への掲示

【アピールポイント】

“子どもは地域の宝もの” など各種団体が知恵を絞り、各事業を執り行っていること。

2 きっかけ、背景

穂波学区では「守ろうよ 私の好きな町だから 学区は一つの家族です」を合言葉に学区運営に取り組んでいる。また学区住民は地域に住む子どもたちを“子どもは地域の宝もの”と考え、各種事業を執り行い、見守っている。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、民生委員児童委員、保健委員、PTA、女性団体・女性会、子ども会、老人クラブ
計約50人

(2) 他団体との協力

企業から風船の提供

(3) 運営協力

地域事業には参加してもらえが役を引き受ける人が少ない。

時間をかけて少しずつ理解してもらい役員となってもらっている。

4 実施のスケジュール

H23年 11月 子ども会が中心となり行事内容を立案



12月 学区連絡協議会役員と行事内容を検討



H24年 1月 業者と打合せ



2月 チラシなどを作成 学区内に配布、回覧



3月 役割分担の打合せ 招待状配布



4月 参加者把握、最終打合せ



5月 行事実施

5 成果と課題

(1) 成果・効果

住民間の交流が深まった。三世代のみなさんが参加して、和気あいあいとした時間を過ごすことができた。

(2) 苦労した点

活動の担い手が不足。役割分担をしても引き受ける人が少なく、苦労した。

(3) 今後の課題・展望

活動の継続、担い手の世代交代が課題。担い手不足から行事の継続が近い将来難しくなると思われる。

